



いつもは、自由畫帖の中から拾ひ出してゐた編輯子が、三月號にといふ編輯技術から、こんどはお雛さまなど注文して描いて貰つたのが此の畫である。ことしのお節句に先立つ二月のことだから、當然記憶畫である。ところが、驚くべきことに、どの子もどの子も、親王さま、内裏さま、官女、五人ばやしと、ちやんと各段の位置を描いてゐる。なか／＼丹念な密畫もある中に、之れなんかは、相當粗描の方である。しかし、粗描ではあるが至極く面白いところがある。お雛さまの顔が、まるで普通の子どもの顔をしてゐる。今にも話し出しそう。踊り出しそう。菱餅に手を出しそう。つまりは、そういつまでも、ちつとしてはゐるそうにない顔をしてゐる。そこがたまらなく面白い。子どもの畫は、何を描いても自分を描いてゐると言つたら、あんまり普遍化し過ぎた言ひ方になるかも知れないが……。

(倉橋惣三)